

令和 6 年度 自己評価・学校・施設関係者評価報告書

令和 7 年 3 月 31 日

学校法人 田澤学園 東一の江こども園

1. 本園の教育目標

<教育方針>

1. のびのびと安心感を持って自ら健康で安全な生活を作り出す子ども
2. 様々な人と関わり、工夫したり協力したり一緒に遊べる子ども
3. 様々な環境に興味や関心を持って遊び、生活する子ども
4. 聞いたり、話したりすることを楽しむ子ども
5. 感性豊かに創造的に遊び込める子ども明るく健康な精神と元気な活力に満ちた心身の基礎を築く

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

	課 題	具体的な取り組み方法
1	保育者間等の連携の充実	日常での連携の意識の向上および連携によるこども理解、環境構成などの充実に取り組む。
2	保育者の学びの充実	認定こども園になり、業務時間も多様になってきたため、それに応じた研修等の工夫に取り組む。
3	保育者が提案するクラス活動と遊び	子どもの興味関心がうまれるような保育者の提案、活動やクラスなどで共有しより豊かにするなど、「みんなのじかん」の充実を図る

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

○評価項目の達成及び取り組み状況を検討する上で、保育者等の自己評価を以下の通りに実施した。

- ・各項目の「工夫したこと、よくできたこと」「課題に感じたこと」を各自記入
- ・記入したものを持ち寄り、園内研修において小グループで討議（令和 7 年 3 月 25 日ほか）
- ・討議し、その後の保育実践や文献などにおいて再度評価したことなどと追記し園長に提出
- ・園長を中心に「工夫したこと、よくできたこと」「課題に感じたこと」をとりまとめた。

○保護者アンケートは令和 7 年 2 月 25 日～3 月 7 日まで無記名のアンケート調査（インターネット利用）である。

	評価項目	評価	取り組み状況
1	保育者間等の連携の充実	A	○「保育者間で日常的に肯定的な子どもの姿について話すことができた」「様々な先生との会話を増やし、子どもの話や遊び、環境構成や保育の予定など、様々なことを相談し、学年でやることを共有してもらったり、相談させてもらったりした。」「今日あった楽しかったこと、時に難しかったことを保育後の合間時間で話すようにしていた」などの日々連携を意識している保育者の意見が多く見られた。 「互いに肯定的な理解と評価できる環境づくり」（厚生労働省「自己評価ガイドラインハンドブック」2020）は連携する上での基盤であり、この基盤作りに保育者らが意識してくれていることは評価したい。 ○ドキュメンテーションや週 1 回 15 分の園内研修などが連携の充実に効果が実感があり、今後も充実させていきたい。 一方で、012 こすもすと 345 おおきな木、345 おおきな木の 1 号担当と 2 号担当の連携は、グループウエア利用などで、連携する意識を強化してきたが、今後さらに充実できることは多く、今後の課題としたい。

2	保育者の学びの充実	A	○本年度より、週 1 回程度の 15 分の研修（プチ研修）を開始した。テーマや方法はミドルリーダー他が立案することとし、ミドルリーダー育成も視野に入れた。15 分の研修だけでは学びが充実は少ないが、充実へのきっかけになっており、この研修を自己評価の「工夫したこと、よくできたこと」に記載する保育者らが多かった。 ○園内研修だけでなく、他クラスのドキュメンテーションを見ることが保育者間の日常の対話自体を学びと捉えている保育者の意見も多かった。 ○その一方で「本を読む時間がなかなかとれない」など学びの時間の確保の難しさは課題でもある。しかし、日常の中で学びを見つけられる意識と環境は今年度も充実していたと考えられるためAとした。
---	-----------	---	---

3	保育者が提案するクラス活動と遊び	B	○あそびがより充実し、子ども自らが学び、育つためには子どもの興味関心がうまれるような保育者の提案、活動やクラスなどで共有しより豊かにするなど、「みんなのじかん」（クラスなどで集まる時間）の充実の充実も欠かせない。そのため、「みんなのじかん」に遊んでいることの共有をしたり、内容の相談・話し合いなどをしたりしてクラス全体で興味を持てる機会を作るようにすることに意識して保育をする保育者が多い（発達の幼児担当）。 ○「みんなのじかん」でも子ども主体であることは変わらず、子どもたち自身で遊び進めていくことを意識してサポートしていたり、子ども自身が考えて答えを出せるように援助しようとしたという意識も見られた。 ○また、クラス活動を、子どもが豊かな経験を積み重ねられる時間でもあることを意識している保育者もいた。活動をきっかけにさらに遊びが深まったり、広がったりしていくきっかけとなるような内容を考えて保育をしようとしていた。 ○その一方で、タイミングや量などを難しく感じたり、提案に消極的になったりすることに課題や悩みを感じる保育者も多く、今後はさらにバランスについて検討を深めていきたい。
---	------------------	---	---

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4. 総合的な評価結果

評価	理 由
A	○保育者等の自己評価において「工夫したこと、よくできたこと」の記述が多く、これは本年度保育者等が様々な工夫をしてきた結果であるとみることでもある。 ＜保育者等の自己評価の「工夫したこと、よくできたこと」の記述例＞ ・遊び、環境、みんなのじかんの活動などにおいて、プチ研修や他クラスのドキュメンテーションなどを通して得たアイデアをクラスの子どもの様子に合わせて実践した。 ・こども園とは…という根本を学ぶ必要を感じ、本を読んだり子育て世代の現状の理解を深めた。 ・他クラスの環境や掲示の仕方などを普段から意識して見るようにし、良いところを自分の保育にも取り入れる。 ・個人で制作を楽しんでいたところから、みんなで一つの作品を作ってみたり、材料を変えてみたりなど、同じ“作る”という活動でもやり方や材料、場所を変えてみることで新しいアイデアややり取りや生まれていた。

- 日々の先生方の姿が、一番学べる場面だと感じていた。子どもとの関わり方や伝え方、表情などを常に見てまずは真似してみようことを心掛けていた。今後は、その意図を聞きながら自分なりの保育に繋げていきたい。
- 過去の保育や、過去の写真などを活用した。
- みんなの時間：ただ遊ぶ時間ようになっていたため、何か育ってほしいところや担任の願いを持ち、目的をもってみんなの時間の使い方を検討した。
- 遊びの広げ方に悩んだ時は、以前同じ遊びを楽しんでいたことのある先生に話を聞くようにした。
- 保育所保育指針にのっとり改めて乳児保育について学び、今自分のしている保育と結び付けながら考えることができるいい機会となった。
- 活動報告に様々な個々の情報が上がることで、共有され、また保護者の思いを知ることができた。
- 竹の投げかけをした時に、他クラスの保護者からも竹の提案がきていた。おうちえんでの投げかけ、大切。
- 共通の知っているもので楽しむことによって子どもたち同士で笑い合うことが増え、距離が縮まっていった。

<保育者等の自己評価の「課題に感じたこと」の記述例>

- 日々の生活に追われ、学びが後回しになってしまいがちになるため、意識的に学んでいくことが大切だと感じる。
- 学んだことを保育者間でシェアし合える時間の確保
- 自分で学びに気付くことはあっても、その根拠となる学びで振り返る時間がなかなか取れなかったと感じる。
- 研修報告では学んだ内容をより分かりやすく他の職員へ伝えることの難しさを感じた。内容が自分の中で定着していないと上手に伝えられないので研修を終えた後には振り返る時間を作りたい。
- 自身の保育のよかったところにも注目することで得られた学びもあったかもしれないと考える。
- (保育者間等の連携は) ノンバーバルコミュニケーションの部分をさらに意識したり、ニュアンスの部分も含めて伝えていく必要があると考えた。
- 保育に直接関係なさそうなことでも、いろいろな角度から見ると保育に活かせることがたくさんあるということを感じた
- どうしても、過去のやり方に囚われてしまった部分があった。もう少し、新たな方法ややり方に挑戦していけたらよかった。

○ドキュメンテーションが保育者間の連携や学びにも効果を示している。また、新たに始めた、プチ研修が連携や学びのきっかけになりつつある。

○日常の中で連携や学びを大事にしていることがわかる。これは肯定的な理解と評価できる環境、関係性がとても大きいと思う。

○遊びの充実は皆考えてくれているが、その分悩みも大きい、「あそびのじかん」と「みんなのじかん」のそれぞれの充実と同様に相乗効果について今後より検討していく必要があるだろう。

○本年度の自己評価に関しては一定の成果があったため、引き続き、取り組むものの、今後、取り組む課題に関しては、より保育内容の充実を図るため他の視点から検討することとする。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	保護者との連携の充実	保護者がより乳幼児期の育ちや学びが理解できるような連携の充実を検討する
2	保育者の学びの充実	認定こども園になり、業務時間も多様になってきたため、それに応じた研修等の工夫に取り組む。
3	働きやすく、働きがいがある職場環境の工夫	「働きやすく」と「働きがい」の両立が保育の質の向上につながる。業務に対する取り組みにも視点をあてて評価したい

6. 学校関係者評価委員会の評価

〇年度末の保護者アンケートでの東一の江幼稚園の保育についての評価は以下の通りである。

「東一の江幼稚園の保育について 5 段階でお答えください」

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
たいへんよい	62%	67%	62.6%	54.5%
よい	34%	32%	27.5%	37.7%
ふつう	3%	1%	9.9%	6.5%
わるい	1%	0%	0%	1%
たいへんわるい	0%	0%	0%	0%
回答者数	119	96	91	77

昨年度に引き続き、多くの大変高い評価をいただいた。しかし、回答数が減少し、「たいへんよい」の比率も下がっているため、保護者により関心を持ってもらうような取り組みの強化は必要であると考えられるため、来年度の課題の一つとしたい。

また、保護者アンケートでは次のような意見があった。

＜保護者アンケートより＞

- ・子どもの様子をいいところだけでなく、がんばろうなところも伝えて下さったりと本当に感激するくらいすてきな園だと思います。
- ・どんどん行事が簡略化されていて残念に思うことがあります
- ・園と保護者との距離感がちょうど良い。行事もほどよくあり、負担と感ずることがまずない。入園前の幼稚園のイメージは親同士の関わりが強く、園からの要望なども多く大変なイメージでしたが、全くの真逆で本当にこちらの園に入園して良かったと日々思っています。
- ・園長先生を筆頭に先生方の教育方針が一貫している。
- ・好きなことを好きなだけ遊べる環境があるのは、すごくいいことだと思います。その反面、本人に興味がないことに関しては、経験する機会がないまま、この先進学していくと、急に苦手なこともやらなければいけなくなることが、少し心配なところもあります。”
- ・子どもの気持ちに寄り添った温かい保育をしてもらっていると感じるから。幼児期は、たくさん遊んでもらいたいと思っているので家庭の方針とも合っている。
- ・子どもひとりひとりの気持ちに寄り添い大切にしてくれていると思います。
- ・子供の個性を尊重し、前向きな声掛けを常にしてくれるから
- ・子供の主体性を重んじ、自ら考え解決していこうとする力を育んでもらっているため。
- ・自由でのびのびとしていて、子供が楽しく通えている。遊びの中に学びや育ちがあり、自分で考える力を育ててもらえた。先生達が明るくて穏やか。
- ・伸び伸び過ごせて充実してるようです！ありがとうございます。でも自由すぎてもう少しメリハリがあるともっと良いような気がします。
- ・先生方は凄く優しく接してくださり、子どもの声をよく聞いてくれてどんなことも経験させてくれようとしてくれます。ただ季節に触れる機会や行事が減少しているところが少し残念に思っております。
- ・担任の先生だけでなく、先生方で子どもたちを見てくださっているところがありがたいです。
- ・遊びから学ぶ保育スタイルを他の園では体験出来なさそうだから